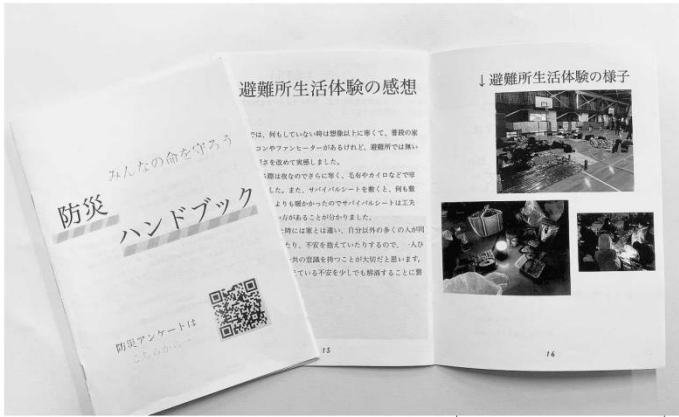


大分大付属小 1年間の学び集大成

防災ハンドブック作成



【天分】大分市の大分大付属小6年生は本年度の総合的な学習の時間で防災について学んだ。2組の34人は1年間の学習成果をまとめた「防災ハンドブック」(B5判二つ折り、22頁)を作成した。「自分と大切な人の命を守るため、活用してください」。2月27日にJR大分駅前で200部を配布した。

避難時必要な物など紹介

大分大付属小児童が作成した防災ハンドブック



⑤防災ハンドブックを手渡す児童＝大分市のJR大分駅

知りたいこと、伝えたいことを話し合いながら学習を進めてきた。熊本・大分地震で被災した熊本県在住の男性にオンラインでインタビュー。発令時や避難所の様子、命を守る行動について聞いた。県立先哲史料館の職員からは南海トラフ地震の発生確率や事前の備えを学んだ。同校体育館で避難所生活も体験した。



ハンドブックは、避難所で必要な物、お薦めの非常食、学習を通して感じたことを写真と共に紹介している。市民の防災意識を調べるため、スマートフォンからアンケートに接続できるQRコードを記載。回答は今後の振り返り学習に生かす。

衛藤主税君(11)と安部真央さん(11)は「いざ」というときに慌てず行動したい。読んだ人が防災バッグなどの備えを見直してくれたらうれしい」。担任の山下千春教諭は「子どもたちが自分で考え、行動した。目の前の課題に立ち向かう力を身に付けてほしい」と話した。(藤沢香)

